# 2022 年度 教員の自己点検・自己評価計画書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	助教	中野 匡隆
最終学歴	学 位	専門分野
中京大学大学院 体育学研究科 博士前期課程修了	修士	運動生理学
	(体育学)	

# I 教育活動

○目標・計画

# (目標)

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に則って、主体的な学びと経験を養うことのできる教育活動を目標とする。

# (計画)

大人数の授業では、授業方法を工夫し、学生が興味を持てるように授業改善をしながら、わかりやすい授業を実施し、個々の理解度や進度に対応したフィードバックを心がける。少人数の授業では、学生に対して個別の対応をしながら、対話的な学びと課題解決の実践を中心とした運営を心がける。

# ○担当科目(前期·後期)

# (前期)

東邦プロジェクトB、解剖生理学Ⅱ、運動生理学、野外運動論、総合野外活動実習I、基礎演習I、専門演習Ⅱ、教採特講(専門教養(保健体育))

# (後期)

トレーニング実習、総合野外活動実習Ⅲ、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

# ○教育方法の実践

オンラインで閲覧可能なオンデマンド資料などを作成した。

- ○作成した教科書・教材
- ○自己評価

まだ十分なオンデマンド資料が作成できていないので、次年度も引き続き作成する。

# Ⅱ 研究活動

○研究課題

地域高齢者の体力測定、熱中症に関する測定

# ○目標・計画

# (目標)

口頭発表1回以上、査読付論文1本以上、科研費あるいは外部資金の獲得を目指す。

# (計画)

授業の隙間の時間、研究日や夏季・春季休暇期間を利用して、研究活動を行う。具体的には、5~9

月に測定を実施し、1月以降に口頭発表と論文化を目指す。

○2015年4月から2023年3月の研究業績(特許等を含む)

### (著書)

- ・尚爾華・澤田 節子・谷村祐子・肥田 幸子・<u>中野匡隆</u>・木野村嘉則『長寿社会を生きる 一地域の健康づくりをめざして— 』地域研究創造叢書 No27 唯学書房 2017 年 3 月
- ・尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、渡邉美貴、鈴木貞夫、中山佳美、森満、馬利中、<u>中野匡隆</u>、丸岡利則『高齢社会の健康と福祉のエッセンス』地域研究創造叢書 No32 唯学書房 2019 年 11 月

### (学術論文)

- ・加治木政伸、山下直之、稲葉泰嗣、<u>中野匡隆</u>、渡辺新大、刑部純平、松岡大介、松本孝朗『屋根付きテニスコートの WBGT 測定:-日射遮蔽効果の検証-』日本生気象学会雑誌 57(1)p17-23, 2020
- ・山下直之、伊藤僚、<u>中野匡隆</u>、樊孟、松本孝朗『携帯型発汗計を使用したゲレンデスキー中の局 所発汗量の測定』発汗学 26(1) p2-9, 2019
- ・中野 匡隆『運動によって誘発される遅発性筋痛に対する人工炭酸泉浴の影響』東邦学誌 47(2), 101-107, 2018
- ・葛原憲治、長谷川望、<u>中野匡隆</u>『スキー・スノーボードの傷害について Skiing and snowboarding injuries』 東邦学誌 45(2), 15~24, 2016
- ・山下 直之、伊藤僚、<u>中野匡隆</u>、樊孟、 田井村明博、松本孝朗『熱中症の事前学習が熱中症 既往者数に及ぼす影響』日本生気象学会雑誌 53(1)p31-38,2016
- T. Kato, T. Matsumoto, A. Tsukanaka, <u>M. Nakano</u>, R. Ito, M. Amano, M. Cole, and SM. Yamashiro, Effect of hypercapnic severity on plasma ammonia accumulation and respiratory exchange ratio during incremental exercise, International Journal of Sports and Exercise Medicine, 2015
- ・澤田節子、肥田幸子、尚爾華、<u>中野匡隆</u>『地域在住高齢者の健康維持活動支援に関する調査』 東邦学誌 44(2), 117-139, 2015

### (学会発表)

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

# ○所属学会

日本体力医学会

日本生気象学会

一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会

日本運動疫学会

### ○自己評価

2022 年度の研究目標は、「1本以上の論文を投稿する」であったが、達成することができなかった。

# Ⅲ 大学運営

○目標·計画

### (目標)

キャリア支援副センター長・キャリア支援センター運営委員会委員として、委員会重点課題に基づいてその職務を果たし、大学運営に貢献する。

(計画)

定例会議での議事の伝達を実施する。

# ○学内委員等

キャリア支援センター運営委員会

### ○自己評価

委員会重点課題に基づいてその職務を果たした。

# IV 社会貢献

○目標·計画

(目標)

子供からシニアまでのスポーツや健康づくりへの寄与

#### (計画)

今まで実施してきたシニア向け教室を継続、コロナの状況に応じて拡大をしていく。 シニア世代以外への活動の内容を考える。

# ○学会活動等

愛知県キャンプ協会理事

○地域連携・社会貢献等

# ○自己評価

シニア世代に関しては、今まで通りの教室や出張などを維持できたが、コロナ対策の継続のため、 拡大するまでには至らなかった。

シニア世代以外の社会貢献活動については、2022年度スポーツ庁委託事業「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」の採択をスポーツ文化振興局が中心となって受けていただけたおかげで、名東区と連携して、区内3小学校学区で、子どもたちが多様なスポーツを体験できる「スポーツチャレンジフェスティバル」を開催することができ、計画以上の成果があった。

V その他の特記事項(学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

# VI 総括

「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業」の採択のおかげで、社会貢献活動は 大きな成果があった。一方で、研究や測定は、十分にできていなかったので、研究にも効率よく進 行できるように環境を整えて、研究目標を達成したい。